

自分達の地域は自分達で守る。

日本宝くじ協会より

「餅つき機 一式」村創りの公へ

昨年度、村創りの会が、美作市協働企画課と協働で提出していただきました「餅つき機一式(250万円)」の申請が通りました。今後、学校に出来る農産加工室、農水部の毛子米栽培、道の駅(予定)等との総合的な運用を検討していきます。



財団法人 日本宝くじ協会
【助成事業の目的】
自治宝くじは、都道府県・指定都市が売元となり、その収益金は住民の生活向上に役立つ施策の財源となっています。
本助成事業は、公益法人等が行う福祉、社会教育、青少年育成、安全安心及びその他公益の増進等に寄与する事業への助成を通じて、自治宝くじのイメージアップを図るとともにその公益性を広報するに目的としています。

子どもゆめ基金も助成金が確定

昨年度、村創りの会が美作市教育委員会社会教育課と協働で提出していただきました「みんなで楽しく田舎体験しよう。」が通りました。子供会の活動資金になります。少なくとも5年間は申請すれば続いている予定です。他にも2本提出していますが、審査中です。

独立行政法人・国立青少年教育振興機構

この基金は、未来を担う夢を持った子どもの健全な育成の一層の推進を図ることを目的に、民間団体が実施する特色ある新たな取組や、体験活動等の裾野を広げるような活動を中心に、様々な体験活動や読書活動等への支援を行っています。子供会を中心に美作市の子どもの体験



粟井地区の暮らしを考える。

粟井地区村創りの会・農業戦略会議

粟井地区内にある既存の施設を利用した「道の駅構想」平成二十四年八月提案した、「粟井地区の将来ビジョン」の中の「道の駅構想」を実現する検討を始めます。JAの総代や組合員を中心に広く意見を求めます。現時点で考えられる案を提示します。



◆コンビニエンスストアとして

営業時間や、土日、祭日の営業が課題です。

◆野菜の直売所として

少量多品目での販売を可能にし、価格は自ら設定する。安定供給と品質向上、顧客確保が課題です。先人からの栽培技術(粟井の宝)の伝承も進みます。「能登香の家」や、イベント時の食材提供を担い、地産地消を進めていく。

◆加工品の直売所として

校舎に作られる予定の農産加工室の運用を前提に、体験活動と郷土料理の伝承、その販売拠点にしていく。他店にも出荷していく。

◆新規就農者の果物販売所として

藻谷浩介氏曰く「活性化とは人口を減らさないこと。」新規就農者等の移住促進を全力で進めていきますが、できた果物の販売所や、宅配の取扱所として住民の利便性を高める。

◆買物の宅配を含めた高齢者の生活支援

移動手段がなくても、宅配が受けられる販売所にしていく。「高齢者支援サポートセンター」とも連携し、支え合う仕組みを高めていく。

◆地域の社交場として

「能登香の湯」が校舎に降りるまでは、能登香の湯同様に田舎の社交場として、いつでも誰かと繋がっていられるようにしていきます。

◆地域通貨の使える場として

昨年度は多くの方々に、ポランティアで様々な取り組みに協力して頂きました。これからは、いくらかの「地域通貨」をお渡しし、その地域通貨を使用して頂ける場にしていく。能登香の湯でも使用可能にする。

総合的に考え、雇用の創出、移住促進に繋げる

今、国が進めている地方創生会議、そこで言われている「まち、ひと、しごと創生総合戦略」は、二月、美作市には校舎を利用している「まち、ひと、しごと創生総合戦略」世代交流ステーション」構想を提出しています。それをさらに拡大した創生総合戦略を描いていきたいと思います。

●粟井地区全体の将来を見通して、あるべき姿を描く

将来の超高齢化、人口減少、そんな状況でも安心して生活できる仕組みは何か。どのようにして「絆とやすらぎの里粟井村」を実現していくのか。粟井地区村創りの会の最大の課題です。粟井村の宝(よき)を使い、その解決法を見つけ、工程表を作らなくてはなりません。全ての条件を取り払い、「しごとあるべきか。」のみから考えていきます。一年間を目途に計画を作成します。

美作市 自治振興協議会全体会議(四月十六日)

美作市市民センターにて、「美作市 自治振興協議会全体会議」が行われました。市から市長、政策審議監、部長ら提案者と、32人の地区自治振興協議会会長が出席しました。平成二十七年の予算概要、まち・ひと・しごと創生総合戦略、美作市の住民自治組織、等の説明があり、市長から、「自治振興協議会女性部会」「花いっぱい運動」について「等の説明がありました。粟井地区に関する箇所を抜粋して報告します。

平成27年度当初予算について

- 1 平成27年度当初予算の概要[(1)~(4)略]
- (5) 自然豊かな環境を生かした魅力ある地域作り
- 中山間地域等活性化応援事業1,140万円(590万円)
- 廃校となる粟井小学校の跡地利用や地域の活性化を支援します。

美作市まち・ひと・しごと創生総合戦略(先行版)(素案)

- 第1章 総合戦略の概要(略)
- 第2章 施策の基本方向(Ⅰ~Ⅲ、略)

Ⅳ自然豊かな地域環境を生かした魅力ある地域作り

1 若者定住の流れの定着促進

➢ 世代交流ステーションの整備

美作市粟井地区の粟井小学校は児童数の減少(児童数17人)により、平成27年3月をもって廃校となる。また、地区内にある能登香の湯は地元の方が交替で管理し、1日約50人の利用があつてコミュニケーションの場になっているが、ポンプ等施設設備が老朽化し近い将来の閉鎖を余儀なくされている。

一方、粟井地区内には近年Uターン、Jターン者が増加し、平成24年以降の40歳代以下の新規定住者は7組にのぼる(判明分、地域おこし協力隊2組を含む)。その影響により、平成20年以降の粟井地区の高齢化率をみると、美作市全体で33.6%から36.9%へと3ポイント程度上昇するなかで、40.2%から41.6%と安定した状況がみられる。さらに、定住者が新たな定住者を呼び込む動きがあり、出生数の増加も期待される。

粟井地区には、粟井春日歌舞伎を小学生から高齢者までともに学びあう伝統があり、本年度の歌舞伎公演では、小学生や新規定住者も上演して大いに盛り上がった。

こうした、若者定住の流れを定着促進するため、廃校後の校舎を「世代交流ステーション」として整備、活用する。既存の住民、新規定住者と定住希望者、そして老若男女がざっくばらんな雰囲気なかで、交流し理解し学習しあえる場所に、起業につなげて新規定住をさらに促進するための拠点とする。

このため、薪ボイラーを活用した能登香の湯の移転整備のほか、子育て支援や定住・起業支援、各種研修のできる場所にする。

既存の住民と新規定住者の不協和音が聞こえる地区もあるなかで、当地区では両者の良好な関係が見られる。当事業により多くの人が集いやすく、相互理解を深めることのできる環境となる。また、若い新規定住者の多くは、薪ボイラーなど環境重視のシステムに関心をもっており、山林資源の活用や起業にもつながり、更なる新規定住が促進でき、地区の社会増への転化を目指す。

当地区は美作市の地理的中心に位置するため、市全体の若者定住の拠点とすることができ、さらに過疎高齢化のトップランナーとして共通の悩みを持つ兵庫、岡山、鳥取県の県境地域への波及効果も期待できる。

この事業の重要業績評価指標(KPI)としては、粟井地区において毎年度4人程度の新規就農者等の社会増が見込まれることなどが挙げられる。

なお、若者定住の流れの定着促進に関しては、拠点となる施設の整備に5千万円程度の経費が必要になるものとする。